

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200291
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター国分 グループホームニチイのほほえみ
所在地	鹿児島県霧島市国分剣之宇都町9-6 (電話) 0995-48-6623
自己評価作成日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1、利用者様とスタッフが家族のような雰囲気です。 2、家族が気兼ねなく、いつでも訪問出来る雰囲気作り。 3、常に笑いがあふれる施設づくり。 4、地域の方々との交流づくり。 5、利用者様の好む食事の提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、幹線道路沿いに位置し、空港や商業施設、病院などの社会資源も多く利便性が良い。法人の通所介護事業所や居宅介護支援事業所が併設され、地域の方からの認知症や介護の相談、入所相談を受けるなど連携している。

理念は、玄関などに掲示され、利用者に明るく接したい、笑顔のある生活を目指したいという職員の気持ちが表れたものとなっている。毎月、業務ミーティングで唱和し共有に努め、その人らしい生活の実現に向けて取り組んでいる。

災害時の避難訓練などは、近隣の小規模多機能ホームと協力して、消防署立ち合いのもと合同で参加したり、日頃から顔の見える付き合いをしている。また、通所介護事業所などの法人や、自治会などの地域協力体制もある。推進会議の参加メンバーには役割の確認や実情把握のため訓練に参加していただき防災に対するアドバイスをもらったりしている。災害時に持ち出しがしやすいように備蓄をし、非常持ち出し袋は、玄関付近に常備している。

身体拘束等の適性化のための指針が整備され、毎月1回業務ミーティング前に、会議を開催している。センサー類は、使用しないケアに取り組んでおり、自由に廊下を歩行し施設や屋外で過ごしていただくよう見守りや声かけを徹底している。たまには、戸外を散策したりティータイムを楽しむこともある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月の業務ミーティングの中での唱和を行っている。理念の唱和をすることでどのようなケアをしていくのか、どのように対応していかねばいけないのか、共有し実践につなげていく。	理念は、その人らしさや心に寄り沿うケアを意識したもので開設当初から変わりはない。職員が理念を共有し日々のケアを実践していくための礎になっており、玄関やスタッフルームに掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席し、避難訓練に参加をして頂いて、お互いのリスクの軽減に努めている。行事の案内や、運営推進会議に参加して頂き、交流を図っていく。	自治会には、加入しているが日常的に地域とつながり交流するといった活動はできていない。しかしホームの行事にボランティアを受け入れたり、近所の方の野菜を差し入れがある。避難訓練には、自治会長などが参加し協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議や避難訓練に参加をして頂き、その中で、認知症の施設である事、利用者様への緊急時の対応方法を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回、運営推進会議を開催している。その中で、利用者様の状況、事故の発生状況や行事の報告を行っている。	家族には、全員に会議への参加を呼びかけている。近隣の小規模多機能ホームなどの職員の参加がある。また、会議開催と同時に夜間想定で避難訓練を実施、参加メンバーに見学をしてもらいながら、協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で意見を頂いている。本庁においても、施設のパンフレットを置かせて頂いている。</p>	<p>昨年、市主催の「福祉まつり」へ協力や始良・伊佐グループホーム班活動に参加している。市主催やグループホーム連絡協議会主催の研修会などにはなかなか参加ができていない状況であるが、内部研修にて自己研鑽しスキルアップを図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月、身体拘束委員会を実施し、身体拘束の無いように、全スタッフで、情報共有を行っている。業務ミーティング内の研修で、身体拘束についての研修を行っている。</p>	<p>身体拘束委員会があり、毎月会議を開催し、拘束をすることへの弊害を含め正しく理解をするため定期的に研修にて知識や技術を研鑽している。玄関の施錠やセンサー類の使用はしないケアに取り組んでいる。また、疾病や身体能力を見極め本人の行動を制限することがないように見守りを徹底し、自由な暮らしの実現のために本人に寄り沿うケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>業務ミーティング内で、マニュアルに沿った研修を行っている。声掛けやケアの方法で気になることは、お互いに注意しあっている。高齢者虐待防止のスローガンを事務所内に掲示している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>業務ミーティング内で、研修を行い、権利擁護に関する制度の知識・理解の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時が改訂があった際には、説明を行い、同意を頂く様になっている。その中で、不安や疑問がないか聞き取りを行っている。会社独自のアンケートを年一回実施し、確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている。運営推進会議内での聞き取りや面会時の聞き取りを行い、その中で出た意見は、全スタッフに共有し、運営に反映できるようにしている。	職員は、日々の暮らしの中や面会時に直接、意見、要望を聞き取るようにしているが、年1回、家族向けに顧客満足度調査を実施し参考になっている。家族から、外出支援について要望があるが、法人の方針で施設外への外出は容易に実現できていない。そのため、家族に理解を求め協力をもらい、個別ケアにて外出を楽しんでもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティング内で、カンファレンスや業務改善に向けての話し合いを行い、支援方法などについて話し合っている。意見があるときには、その都度話し合いを行っている。	管理者を始めとする職員全員が介護職であり、比較的若い世代の職員が多く、産休の職員もいる。ミーティングなどで話し合ったり、職員の一人ひとりの経験やスキルを活かし、それぞれが意欲的に職務に取り組めるよう職場環境や勤務条件の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担を行い、全スタッフが責任を持って仕事ができる様にしている。研修を通し、ケアの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、内部研修を行っている。様々な研修を行うことでスキルアップに繋げている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連合会に参加し、会合や勉強会に参加している。近隣の施設と連携をとり、運営推進会議や避難訓練に参加している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活情報を基に、健康で、生きがいのある生活を送って頂けるか本人や家族と話し合いを行っている。環境の変化に不安がある場合は、声掛けを密に行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、契約の説明を行う際に、不安に思っていることが無いか聞き取りを行い、スタッフと家族が、本人について共通認識を持てるようにしている。入居後、面会以外でも連絡を密に行い、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った状況を伺い優先すべき事項をサービスとして提供する。この時他のサービスが使えるようにし、医療などの専門的サービスに関しては連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調や意思を尊重し、無理の無い範囲で、食器拭きや洗濯物を畳んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態が変化した時に介護方針を統一の為家族に連絡して話し合いを行い、家族の希望を聞き、入居者様の安心安全を第一として家族にも協力や意見を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が面会に来られた際は、入居者様と過ごす時間を大切にさせて頂けるようなるべく居室にて過ごして頂いている。	電話の取次ぎや手紙などの代読、訪問マッサージ・訪問販売（パン、ケーキ、豆腐など）・コンビニエンスストアの宅配利用、また訪問美容受け入れなど馴染みの関係構築がなされている。本人が大切にしてきた馴染みの関係性が継続できるよう家族にも協力をもらうよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃関係のいい利用者様同士は食堂での席を近くにしたりしている。身体状況等(例えば難聴)に応じて、座席の変更も随時行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの問い合わせや相談があれば誠意をもって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの習慣や生活歴を家族から聞き出し支援をしている。本人の意向がはっきりと確認が出来ない入居者様もいるがご本人の理解できるコミュニケーションの方法でしっかり説明を行う事を大事にしている。	ミーティングやカンファレンスなどで話し合い、本人の思いを共有し、家族とも情報を共有するようにしている。ホームの理念は、その人らしさ、心に寄り沿うケアであることから、職員は常に意識し本人の思いに触れ、意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活歴を伺っている。また了解を得て、サービス利用のあった施設や前任の介護支援専門員より注意する事や疾病、生活歴等を聞き取り、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけ等を行い日常の作業に参加して頂くようにしている。症状も変化しているので新しい情報はスタッフ全員で共有し支援を行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時に担当者会議を開催している。モニタリングは随時行っている。また身体状況の変化等必要に応じて家族・スタッフ間で連携を取りながら細やかな支援の方法について話し合い実践している。	担当者会議は、家族の都合に合わせて日程を調整し、本人、家族の意向を踏まえた介護計画書を作成、目標達成に向けて取り組んでいる。モニタリングは、随時実施し、重度化した利用者の自立支援や生活の質の向上に向けた支援についても家族に理解をもらいながら本人本位に検討し現状に即した介護計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書を基に介護スタッフが支援シートを作成する。また、管理日誌や介護記録で情報の共有化を図っている。月1回の業務ミーティングの中でBS法を用いて話し合いを行っている。又、個別に数名ずつのカフェラズを行い、全員で情報を周知し支援に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カフェラズは勿論の事、朝の申し送りでも問題に気付いたスタッフから問題提起があり、勤務しているスタッフ間で話し合いを行っている。計画書や支援シートに反映しない細かい検討もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事の案内などを頂いているが、参加が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診が6名。家族対応で病院受診される方が2名である。ホームでの変化やバイタル・体重の変化等情報を共有し適切な指示が頂けるようにしている。ご家族からの要望なども往診時に主治医に報告を行っている。ご家族への報告も行っている。	毎日健康チェックを行い、主治医や訪問看護、薬剤師などと連携し適切な医療が受けられるよう支援している。原則的に本人や家族が望むかかりつけ医となっている。他科受診は、家族に協力をもらっているが、主治医宛てに文書にて情報提供し協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、通所の看護師に報告や確認をするなど臨機応変に対応をしている。主治医や訪問看護スタッフとの連携や家族に報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時はスタッフが随時面会に行き、その際主治医・担当看護師に状況確認を行っている。状況を把握した上で、主治医・ご家族への報告・連絡・相談を密に行い連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期をどのようにするかは担当者会議開催時に家族や入居者様に具体的な対策方法を説明し承諾された旨を計画書にて署名・押印をいただく。事業所で出来る事をスタッフで共有し体制を整えている。	重度化した場合における対応の指針があり、看取りの考え方、方針や対応なども明記されている。ただ、重度化した場合の医療に関する本人、家族の事前の意志確認は文書化までには至っていない。契約時から看取りを希望される方も多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は外部研修で行っている。また緊急連絡網を掲示している。業務ミーティングの中でマニュアルに沿って研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日中・夜間それぞれを想定した避難訓練を年2回以上行っている。同敷地内の通所事業所と合同で行い、協力体制を取っている。地域の方や近隣施設の方にも声かけを行い参加して頂いている。</p>	<p>隣接の通所介護事業所や近隣の小規模多機能ホームなどと昼夜想定での避難訓練を合同で実施している。自治会長の協力があり、運営推進会議と同時開催し、会議メンバーにも避難訓練に参加してもらっている。水や食料品など備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの際には入居者様の尊厳に配慮をしスタッフ一人ひとりが注意を払えるようにしている。また声かけが不足したり入居者様の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけになる事がある場合、その都度注意し合い業務ミーティングの中で勉強会を行っている。	失礼のないよう声かけしたり、居室やトイレに入る時は、ノックするなどプライバシーに配慮したケアに努めている。年2回、職員研修にて人格の尊重や尊厳をもってケアできるよう日々、自己研鑽している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がみられた時には入居者様の話を聞き、個々に合った説明を行い納得して頂いている。また事務所や居室で不満や不安を聞き出せる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行きたい場所（例えば外）、食べたいもの等、入居者様の生活のリズムや思いを考慮し希望に添えるような支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段着と寝間着の区別をし支援を行っている。衣類の選択が出来る入居者様は、入浴時の着替えや外出時の衣類を選んで頂くようにしている。髭剃り、散髪を定期的実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやおぼん拭きを出来る範囲で手伝いを頂いている。食事は、スタッフとともに会話を楽しみながらとっている。	担当職員は、食材を把握し利用者の嗜好や希望に配慮して調理している。行事食を通じて季節を感じてもらうため、個別の食事形態の工夫もしている。外食は、家族に依頼しているが、適時ホームで出前を取り、食が楽しみになるよう支援している。能力に応じた台所手伝いもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重の確認を行い無理強いする事がないように個々のタイミングを見ながら摂取して頂いている。入居者のペースで食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎回行っている。舌苔はスタッフが介助を行っている。入居者様の能力に応じて声かけを行い、可能な範囲で入居者様にして頂く。仕上げ磨きはスタッフが行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のある方はトイレまで誘導を行い、尿意のない方・訴える事が出来ない方は排泄パターンを把握し誘導を個別に行っている。失禁の少ない方は日中はリハビリパンツで、夜間のみオムツを使用するなどしその人にあった支援を行っている。	昼間は、布下着だったり、リハビリパンツやポータブルトイレを併用し排泄の自立支援を行っている。必要な方には、排泄のリズムを把握しトイレ誘導してなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は個別に把握し排便の有無を確認している。便秘薬は主治医の指示で個別の便秘のリズムで服薬介助している。また乳製品や乳酸菌飲料、食物繊維を摂り便秘にならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	月曜から土曜日の午後は入浴可能であり、入浴は個別であり拒否された際は声かけの工夫をしたり、時間をおいて声かけを行っている。現在入浴は週2回を目途にしている。	本人の希望や必要性に応じて、随時入浴ができるよう支援している。浴槽への移動介助を二人介助で実施している方や同性介助に配慮しながら入浴してもらっている。また、加齢による体力低下などを考慮し無理のない入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に声かけを行い居室で休んで頂いている。また横になるのを嫌う方には無理のない姿勢で休息を取って頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように一包化をお願いしている。またスタッフでダブルチェックを準備の段階、服薬介助の段階で行っている。かねての状況の把握をしっかり行い副作用に気をつけ観察している。(血圧関係、睡眠導入薬、血糖関係、下剤など)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑で花や野菜づくりをしたり、歌、ボールを使ったゲーム、日光浴など入居者様の得意なレクリエーションや行事を実施している。季節ごとに行事を計画・実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて庭に出て日光浴の時間を作っているが多くはない。ご家族の協力を得て外出・外泊をする事もある。今後も可能な限り計画していきたい。	施設外への外出は、家族に協力してもらっているが、体調や天候の良い日は、庭に出て日光浴をしたり、パラソルの下でお茶を楽しんでいる。重度化や法人の方針により、気軽に外出を計画・実施することは困難である。外来受診や自宅訪問など本人が希望する外出は、家族と一緒に出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様は金銭を所持していない。必要なものはご家族に購入して頂いている。入居者様から「お金を持ってない」と言われる事があるが、その都度説明を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や親族にはいつでも電話の取り次ぎは可能である事は説明している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度は随時確認を行っている。ホールには、季節感のある物を掲示している。個々の居室からの景色を見て過ごす時間も作っている。</p>	<p>玄関には、季節の生花が活けてあり、対面式キッチンからは利用者の表情や様子を伺うことできる環境になっている。食堂は、採光や広さがあり、畳部屋がある。また、廊下も広々として壁には、利用者の作品が掲示されている。脱衣場にはトイレも設置され心配りのある共用空間づくりとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは座席は指定せず、好きな所に座って頂くことを基本にしているがトラブルになる事があるのでスタッフが気を付けて誘導を行っている。また、気の合う入居者様同士でもいつも一緒にいることで関係性が崩れてしまう事があるので気を付ける。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や寝具はもちろんのこと、置物やぬいぐるみ・写真など持ち込んで頂いている。</p>	<p>備え付けのエアコン、クローゼット、加湿器以外は、利用者に使い慣れた物を持ち込んでもらっている。ベットは、無償貸与で利用できるが、木製だったり、電動ベットであったりと本人の希望や身体機能に応じて使用を工夫し、手すりの設置や転倒予防のため衝撃吸収マットが用意されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所や居室が分かるように表示してある。安全面ではバリアフリーになっており、手すりを配置してあるので動きやすい環境になっている。転倒リスクの高い方の居室にはマットを敷いて対応している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない